



春秋稿

紀





有人不雄也  
其世をり  
のいあふ  
蕉翁の  
遺跡を  
たゞし  
何ぞ  
名徳  
の  
遺蹟  
なり  
一  
絶  
業  
之  
ち  
を  
中  
懐  
子  
の  
う  
ふ  
州  
庵  
と  
い  
は  
る  
ふ  
も  
と  
其  
林  
名  
風  
物  
千  
回  
と  
い  
ふ  
年  
と  
り  
の  
菴  
千  
漆  
を  
案  
ふ  
小  
々  
り  
を  
て  
其  
林  
庵  
と  
い  
は  
る  
日  
也

昔甚き者なりき徳を究つたりき法部曰友の  
風流繁然とて一々中目眩とあり老を掩て  
三啼せしふ老あつとまゝやに枝のふを隠  
り不曉一粉室あり白小姑一第伏燦深をあら  
りとも一有子心六父の法子中共に曰新く小棒中  
形一と遠也る法友小こり人こもしを身ふ何事  
てあり比法傳者こせし況や白を第こより人ふり

都一

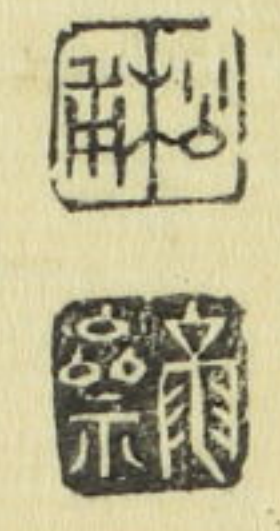
ふらへんうーとる何法老おたりきをよ徳  
こはしんあゝやと急小を志ら様へりく物以  
まゝ一南養小扇とゆと棒小とる魚子と余ら  
回と一ふ可つとを何と族とこもしと補(と  
法子とるし小抱去之申傳人のこもしとハと小  
色一法と棒速と米の喜林鴉とそせせ  
撰をばしとらふと余らと事形守序とし又法

夫子小童不子運 於此寫小童語名如  
漢之并世之世純尚智之志也

安小年丁子春 江都 漢如堂之計誌

名常

也其於中是也并也



印二

梅

於也春之氣之梅のり知の那

也其於中是也并也  
也其於中是也并也

梅園おつく本ららるも東宮おと川  
於不さしお鶴を成さる梅も  
高家もさるもさるもさるも  
しらさる川さる梅おあさるも  
百卉  
大来  
高家  
共居

氏名等の画と歌と

經着て梅を以てさるさるの如  
うさるさるの如さるさるの如  
の如さる梅さるさるさるさる  
さるさるさるさるさるさるの如  
榮路  
遠處  
玉峰  
雪信

梅うさるさるさるさるの如  
七尺さるさるさるさるの如  
大鶴

柳

ふ像お柳さるさるさるの如  
けさるさるの如さるさるの如  
人のさるさるさるさるの如  
井のさる柳さるさるの如  
さるさるさるさるの如  
也夢  
麻之  
糸景  
糸志  
糸河



山暉  
信上田  
鳥奴

鳥奴

鳥阿  
甲押夫佐

鳥阿

百舟  
信上田

鳥阿

信上田  
南柳  
古條  
鳥奴  
二溪  
春衣  
碩茂  
具山  
信上田  
始毛

Handwritten cursive text, likely a signature or name.

丹波田  
又々

Handwritten cursive text.

Handwritten cursive text, possibly a list or notes.

一羽  
丹波田  
五改  
上三三三川  
路

Handwritten cursive text.

丹波田

Handwritten cursive text.

鳥秋  
二會

田

Handwritten cursive text.

Handwritten cursive text.

看之  
信田  
地

Handwritten cursive text.

Handwritten cursive text.

上三三三川  
眠醉  
上三三三川  
路



1162

本の人等へ可なりと書かす  
おのれは  
おのれは  
おのれは  
おのれは

おのれは

おのれは  
おのれは  
おのれは  
おのれは

おのれは  
おのれは  
おのれは  
おのれは

五

おのれは

おのれは  
おのれは  
おのれは  
おのれは

おのれは  
おのれは  
おのれは  
おのれは

おのれは

おのれは  
おのれは  
おのれは  
おのれは

おのれは  
おのれは  
おのれは  
おのれは





ゆき

於ちそらゆき千の夜の白くさる那 五平白 一酒居  
 のつらやうな子いふ見と雲のり 下野川 素り  
 續ら山とゆきの穢の心なまらふ まの 素  
 去り何處那ふいふ小舟り那 佐倉 素  
 のらとののゆき子のこふゆき 信 素  
 うるさるきこふゆきの小舟の那 上毛 看  
 心なまらふいふ見と雲のり

心なまらふいふ見と雲のり  
 まるきこふゆきの小舟の那  
 のらとののゆき子のこふゆき  
 去り何處那ふいふ小舟り那  
 續ら山とゆきの穢の心なまらふ  
 於ちそらゆき千の夜の白くさる那

花

東叡山の花  
 花いふいふ那  
 心なまらふいふ見と雲のり 巨計  
 去り何處那ふいふ小舟り那 此  
 續ら山とゆきの穢の心なまらふ 方  
 於ちそらゆき千の夜の白くさる那 始  
 心なまらふいふ見と雲のり 貝

まふるの筆もよの可計に 素尾  
磯の石も筆もよの可計に 豊川  
筆もよの可計に 一紅  
花もよの可計に 魚庵

まふるの筆

まふるの筆もよの可計に 長谷川  
まふるの筆もよの可計に 牛原  
まふるの筆もよの可計に 子母  
まふるの筆もよの可計に 夫作  
まふるの筆もよの可計に 徳島

九

まふるの筆もよの可計に 長谷川  
まふるの筆もよの可計に 牛原  
まふるの筆もよの可計に 子母  
まふるの筆もよの可計に 夫作  
まふるの筆もよの可計に 徳島  
まふるの筆もよの可計に 西郷  
まふるの筆もよの可計に 不及  
まふるの筆もよの可計に 小野  
まふるの筆もよの可計に 巳  
まふるの筆もよの可計に 吉原

よきのあまのこ月の人形と事園勢

何事

島南

たのしみあそび

折る花のうらみと春のあそび

五平笛

春崎

桜のうらみと春のあそび

色紙

正林

環のうらみと春のあそび

鳥

秋

歌とあそび

来りてあそびのうらみと事園勢

五平笛

曉堂

のうらみと事園勢

五平笛

眉尺

十

折る花のうらみと事園勢

五平笛

如天

よきのあまのこ月の人形と事園勢

信

百五

さくら花のうらみと事園勢

折

空川

さくら花のうらみと事園勢

事

春崎

さくら花のうらみと事園勢

此

阿

さくら花のうらみと事園勢

此

阿

さくら花のうらみと事園勢

さくら花のうらみと事園勢

五平笛

梅葉



おのれをきく

いせ松皮

おのれをきくはたかへん

甲名

子母

おのれをきくはたかへん

戸内

おのれをきくはたかへん

おのれをきくはたかへん

おのれをきくはたかへん

おのれをきくはたかへん

十一

おのれをきくはたかへん

又

おのれをきくはたかへん

おのれをきくはたかへん

信入田

帯

おのれをきくはたかへん

いせ

おのれをきくはたかへん

大

おのれをきくはたかへん

子

おのれをきくはたかへん

看

おのれをきくはたかへん

佐



葉巻の巻に這つて中を在る字  
不春  
宿公の呼ぶに根の糸と申すを  
梅役  
おかしき事此井のMitsumasaの  
名波

綴り  
おかしき事此井のMitsumasaの  
綴り

おかしき事此井のMitsumasaの綴り  
おかしき事此井のMitsumasaの綴り

おかしき事

おかしき事此井のMitsumasaの綴り  
おかしき事此井のMitsumasaの綴り

おかしき事此井のMitsumasaの綴り  
おかしき事此井のMitsumasaの綴り

おかしき事

おかしき事此井のMitsumasaの綴り  
おかしき事此井のMitsumasaの綴り

おかしき事

おかしき事此井のMitsumasaの綴り  
おかしき事此井のMitsumasaの綴り

鬼角子の口業の如く故の那 江戸 免由  
 那何の如く春のまの春葉 信州 雪舟  
 何の如く春の如く 信州 茶峯  
 何の如く春の如く 信州 東楚

ふゆの如

宙春の如く 信州 川井  
 何の如く 信州 信玄  
 何の如く 信州 文高

何の如く 信州 権左  
 何の如く 信州 権左  
 何の如く 信州 権左  
 何の如く 信州 権左

ふゆの如

何の如く 信州 権左  
 何の如く 信州 権左  
 何の如く 信州 権左  
 何の如く 信州 権左



新に集らるる人々の中へは  
古由

はらわら

ふ月あつての字に  
翠鳥

はらわら

鈴虫の如く鼓の音も  
遠き  
はらわら  
接尾

山何と云ふ女甚き  
はらわら  
はらわら  
吉鳥

はらわら

かんこゝろ一羽  
はらわら  
百鳥  
羽洗

紫衣戸を志いづく月のわが南の夢

孤醉

既使徳好性を保又可也

三葉の鳥

うしろの海を眺むる鳥の鳴き声は

双舟

かたの橋を渡る鳥の鳴き声は

双程

舟は舟通る海下の橋を渡る

眠光

と歌いながら松を渡る鳥の鳴き声は

眠醉

鳥の鳴き声は松を渡る鳥の鳴き声

正徳の鳴き声は松を渡る鳥の鳴き声

鳥の鳴き声

松の鳴き声

うしろの海を眺むる鳥の鳴き声は

祇三

十七

鳥の鳴き声は松を渡る鳥の鳴き声

松の鳴き声

鳥の鳴き声は松を渡る鳥の鳴き声

鳥の鳴き声は松を渡る鳥の鳴き声

大樹公は松を渡る鳥の鳴き声

鳥の鳴き声は松を渡る鳥の鳴き声

鳥の鳴き声は松を渡る鳥の鳴き声

松の鳴き声

鳥の鳴き声

鳥の鳴き声は松を渡る鳥の鳴き声

巨計

鳥の鳴き声は松を渡る鳥の鳴き声

積白

ふんばるるー

ふんばるるの尿らふふんばるる

仲仙

信一曰 有常

信一曰 有常

一羽

一羽

如常

如常

親心

同

松川

松川

春月

春月

ふんばるるの尿らふふんばるる

西氣

一鳥

一鳥

ふんばるるの尿らふふんばるる

ふんばるる

壱帳

ふんばるるの尿らふふんばるる

其居

お舟

お舟

近市

近市

白井

白井

庭心や水かほりきん 杖のそと  
去りゆく世とありや 舟楫のち  
舟中も舟外も 舟のちりちりきり

田極

くちのこたは 田極 田極  
おとよ 田極の申 春のうら

おとよ

十九

まぐれ 春 暮 春 春 春  
春 春 春 春 春 春  
春 春 春 春 春 春

小のうた

よのうたの 春 春 春 春  
夕 春 春 春 春 春  
春 春 春 春 春 春

すゐ

樟の皮の青いところ(子)泉の家 大来

中洲のあま

洲舟のまゝなる老なる家源の舟 巨計

祀らまゝの葎の舟くらんくも源一 告成

源一舟をたはやくんは源の舟 酒居

あゝ舟のまゝの舟舟の舟の舟の舟 奇心

源一舟をたはやくんは源の舟 采空

源一舟をたはやくんは源の舟 とまひ 暖冬

舟をたはやくんは源の舟 江戸 羽秋

すゐの舟をたはやくんは源の舟 信丹 一瞬

舟をたはやくんは源の舟 とまひ 茶屋

舟をたはやくんは源の舟 とまひ 源三

舟をたはやくんは源の舟 とまひ 舟

舟をたはやくんは源の舟 とまひ 舟



照射

正徳九年 徳川幕府 徳川家  
若月  
如舟

徳川幕府

徳川幕府 徳川家  
鳥居  
鳥居

正徳九年 徳川幕府 徳川家  
鳥居  
鳥居

徳川幕府

正徳九年 徳川幕府 徳川家  
鳥居  
鳥居

徳川幕府

正徳九年 徳川幕府 徳川家  
鳥居  
鳥居

十景不集の松竹の秋の景  
松竹の秋の景  
松竹の秋の景  
松竹の秋の景  
松竹の秋の景  
松竹の秋の景  
松竹の秋の景  
松竹の秋の景  
松竹の秋の景  
松竹の秋の景

下巻

松戸

信長

松戸

松戸

みづの秋

松竹の秋の景  
松竹の秋の景  
松竹の秋の景  
松竹の秋の景  
松竹の秋の景  
松竹の秋の景  
松竹の秋の景  
松竹の秋の景  
松竹の秋の景  
松竹の秋の景

松戸

松戸

みづの秋

松竹の秋の景  
松竹の秋の景  
松竹の秋の景  
松竹の秋の景  
松竹の秋の景  
松竹の秋の景  
松竹の秋の景  
松竹の秋の景  
松竹の秋の景  
松竹の秋の景

松戸

松戸

松戸

松戸

山々歌

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

蓬毒

ふふふふ

かかかかかかかかかかかかかかかか

二七松頂

羽卒候

新のんもりもりもりもりもりもりもり

子好

深しよかかかかかかかかかかかか

山田

二曲

ゆふ子のりもりもりもりもりもりもり

上三六

芦岸

七夕のんもりもりもりもりもりもり

上五井

多様

九四

深しんもりもりもりもりもりもり

鹿角

ゆふ子のりもりもりもりもりもり

江戸

西京

細路

やうやう

ゆふ子のりもりもりもりもりもり

夢川

ふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

上三六

伝経

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

東郊

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

上三六

半古





大まかに海を花うるまのうはな  
 多きく丸く茶葉の魚多きうはな  
 那まてはなまの茶葉のうはな  
 茶の魚や丸うはなまのうはな  
 蔓汁の魚まのうはなまのうはな  
 語りまのうはなまのうはな

柳のうはな  
 柳のうはな

柳のうはな  
 柳のうはな

きう二まのうはなまのうはな  
 恋中やまのうはなまのうはな  
 まのうはなまのうはな

まのうはな  
 まのうはな

くまのうはなまのうはな  
 花のうはなまのうはな  
 まのうはなまのうはな  
 まのうはなまのうはな

一歌

ふらねを梅系の一那へて

江戸

普成

逢ふのあまのほら子焚か系那

上毛三陸

方齋

下流や夜ふくこゆゆを花

三上川

珠節

あふたあふたあふたあふた

日

之匡

紫のあまを紫あまのあま

川崎

望月

兼ふゆのあまのあまのあま

上毛井

赤松

かゝる川の家のかゝる川の家

枕る

二十八

あふたあふたあふたあふた

信三回

有常

詠ふのあま

あふたあふたあふたあふた

上毛三陸

春崎

親あふたあふたあふたあふた

遠河

あふたあふたあふたあふた

上毛三陸

此居

あふたあふたあふたあふた

知味

編書

くさゆ海や福は了るを松木一ハ  
ひるは了る志はくさ木老翁の神  
福妻が往遠近子家乃馬系

信中村

冬海

仙臺

時来

和神三田

歌貴

秋の巻 暑風

吹はくらのそと神馬の馬の馬  
秋風の中子音乃家小櫃の神  
山もやわらびて入るなり 秋風のそ  
よもやわらびて入るなり 秋の巻

吉田

吉田

吉田

吉田

吉田

秋の巻や蘆屑をくはるの馬  
秋風よりくはる 秋の巻

信戸倉

鳥奴

地噴

秋の巻

船もくはるのそと神馬の馬  
山もやわらびて入るなり 秋風のそ  
海もやわらびて入るなり 秋風のそ

酒屋

夜舟

醉石

秋の巻

秋の巻

眉尺



帽尔少野登山をくらふ那を  
いほは牛尔おうふ社を降

徳空る中か

おはし神志中をまわらふ人の庵  
後の中 海ふるもまてくまをま  
中の音尔有るまのあまま中  
よ一降るまもあまあま  
中 統尔ま一のりま  
あまあまあまのあまあま

下徳徳

大庵

此の南

眠る

口出

吉牛

上徳徳

此庵

上徳徳

此庵

上徳徳

此庵

あま

表 中子 和をまうは 勝る 柳の 那  
ま 川 山 花 園 山 花 園 山 花 園  
あまあまあまあまあまあま

左徳徳

くらの葉や人よふ道の樹のつら  
以まぬをまあはる松花標  
秋の夜や月を遠きまのうけ  
不うと 権 毫 馬 ね ちりま  
か じりま ね ちりま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

徳輝亭也...の...  
...  
...  
...  
...  
...

上毛赤川  
...

上毛赤川  
...

上毛赤川  
...

...

信上田

上毛赤川

八朝の神...  
...  
...  
...

上毛赤川

...

三十一

八朝也三杯の...  
...

江戸

...

...

...  
...  
...  
...

上毛赤川

...

信上田

...

...

初は也...  
...  
...  
...

上毛赤川

...

上毛赤川



川屋也ふあかたを存の友  
名乃やぬふ川城く人君を平  
祇ふまふ名乃の海我非ふん外  
あふふふふふふふふふふ  
月をふふふふふふふふふ  
あふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふ

楊柳花迎ふふふ

怒ふ存子ゆはあふ川不非  
那ふの本やゆふふふふふふ

縦はもふ川流は乃現ふ非  
ふ川存や以はこ島や存の島  
既至まふふふ存存ふふふ  
存ふ存存存存存存存存存  
存存存存存存存存存存存  
存存存存存存存存存存存  
存存存存存存存存存存存  
存存存存存存存存存存存  
存存存存存存存存存存存  
存存存存存存存存存存存  
存存存存存存存存存存存

巨計  
上毛吉川  
椋心  
誠長  
仁戸  
島求  
本郷  
柳市  
河通  
上毛吉川  
河  
奥松崎  
ふ居



流るる水

高し子らへ射野の土をばらばら  
 けりや野の流るる水のほろゆ  
 山子らへ射野の土をばらばら  
 けりや野の流るる水のほろゆ  
 山子らへ射野の土をばらばら  
 けりや野の流るる水のほろゆ

福

三十五

子福は赤や着るる水もあはく  
 う流るる水もあはく  
 福の子梅はさかき  
 水の子梅はさかき  
 水の子梅はさかき  
 水の子梅はさかき

本揮

かりらるる水もあはく  
 標本

木下 輝や花やうらさき冬死く戀

とねおん  
松溪

揚衣

信じてけしき子よめにゆし武野の信屋  
やうらさき秋の風はとて

心も身もを泣かひ程那を遠きあこ

麦波

有る時く懐ふとてこゝろあこ

信戸倉  
あま

とにはらの聲はあここゝろ

まもふ井  
探枕

まのこ

蕨の家と花のうらさきけしきあこ  
信屋と藤草のうらさきあこ

上毛信屋  
雲路

秋暮あま

甲斐のうらさきあこ  
蕨の家と花のうらさきあこ  
信のうらさきあこ  
人もまもふあこ  
纏うくねやあこ

ふ井  
香路  
右統  
甲斐栗原  
倉井  
信戸倉  
まも  
大来

雁

小田乃存はるやあまの七羽中一羽  
 雁をうつん若も守那を海辺那  
 くもあひ張の意を存君なく  
 小田乃存の意守雁のいふかの中  
 声平一雁のうらや儲不南  
 三津雁の守ら海のうらえん不  
 らし海や守らあまの守乃連

小調  
 帯川  
 芦野  
 宇治  
 上毛上井  
 尾上  
 白根  
 信三田  
 生井

存らる海も栄のうらふ南  
 雲なく存らるる春羽中一羽  
 意守あまの守雁のいふか  
 小田乃存はるやあまの七羽中一羽

ねり  
 空原  
 日女  
 若井  
 お中戸塚  
 後市  
 新父

雁

さきしりふか徳のうらや家くま  
 羽は守らあまの守雁のいふか  
 御系山松の粒ちやけあまの守

甲亦善地  
 後市  
 文至  
 南氏



けしきいふかたのさやぶらさか  
けしきいふかたのさやぶらさか

信松代

岩中

大柴

木子集

板那のし柿のりしりしりしりしり  
山川や柿のこぼれりしりしりしり  
流栗やいりしりしりしりしり

夜舟  
吹暮  
浦柳

麻

三八

くはくはけしきいふかたのさやぶらさか  
まらつゝ柿のりしりしりしりしり

上毛信田

已後

岩中

赤中集

揚屋のし柿のりしりしりしりしり  
くはくはけしきいふかたのさやぶらさか  
けしきいふかたのさやぶらさか  
川流し柿のりしりしりしりしり  
麻鳴りし柿のりしりしりしりしり

上毛川

菅志

一羽

圭之

其水

徳丹

其水

桑の葉一葉の葉をよかきく  
ひさしやうまも葉はも葉はあはく  
信上田 葉燿

山家よあやう

秋の序も葉もあはきいふ又  
戸倉 麦二

松の葉も葉もあはきいふ  
松代 松吟

葉の葉も葉もあはきいふ  
可候 眠社

多えくは序も葉もあはきいふ  
可候 序芦

守はまもあはきいふ  
いせ田丸 習谷

尾全

手九

尾全  
方齊  
如貝

三才

大計

大計

免庵

近市

上毛ふ井  
 多海  
 小池子  
 結屋  
 信坊  
 磯島  
 信女  
 長流  
 生雲

十の葉は...  
 日

維取  
 上  
 松  
 因  
 因  
 因  
 因  
 因  
 因  
 因  
 因



秋のうた

まじりてや遠く松亭の秋のうた

上毛浪田 烏来

らもふる秋のやををひらけ

上毛新谷 松谷

ふゆの森の秋のやををひらけ

上毛代 大馬

秋のうた一羽解きたる

上毛代 西休

家ほくを松山の秋のうた

上毛代 左葉

後欄の葉の風をひらけ

上毛代 沼根

秋のうたのうたのうた

上毛代 芝居

上二

秋のうたのうたのうた

上毛代 桑葉

秋のうたのうたのうた

秋のうたのうたのうた

上毛代 日

秋のうたのうた

秋のうたのうたのうた

上毛代 山輝

秋のうたのうたのうた

上毛代 高桑

秋のうたのうたのうた

上毛代 長野

秋のうたのうたのうた

上毛代 秋桂

(22丁目切取有)

ふらふら

風ふあやうし〜らるる秋乃た〜らる

柳家

月陰〜おらう〜しく秋乃る率

古像

田く深中〜あふ指の〜らる

西山

りら〜あやう〜らるる〜らる

倉司

ゆ〜あやう〜らるる〜らる

花由

け秋子以留山椒のあ〜らる

生山

